



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

新年のご挨拶

昭和大学歯科病院 病院長 榎 宏太郎

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は、昭和大学歯科病院への多大なご支援とご尽力を頂きまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

今年の干支は60年に一度の甲午(きのうま、こうご)で飛馬とも呼ばれ、大きく飛躍する年とされます。

当院も、今まで培って来た、全人的医療の展開、地域医療への貢献、先進的歯科医療の探求、高度な臨床教育など、各分野における目標を再確認し、さらに邁進する所存でございます。

具体的には、1) 社会の様々な分野でご活躍なさっている方々や当院に通院なさっておられる皆様からの御意見を拝聴する機会を設けること、
2) 訪問診療等も活性化すること、3) 地域で開

業されている歯科医の方々との連携業務を密にして支援体制の充実を図ること、
4) コンピュータ支援技術に代表される最先端技術の導入によって患者さんの負担を出来るだけ減らすこと、
そして、5) 学生や研修医の諸君も含めて、常に我々の現場の医療を客観的に評価すること、などを着実に実現して行きたいと考えております。

全ての教職員が十分にやりがいを感じながらこの一年を過ごし、少しでも患者さんに喜んで貰えることが出来れば、当院におきましてこの一年は大きく飛躍する年となるでしょう。

本年も何卒宜しくご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。



撮影:昭和大学 名誉教授 道 健一先生

明けましておめでとうございます。皆様、お健やかで佳い新春をお迎えのことと思います。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

年の初めに、歯の健康に対する意識が国によって違うということをお話したいと思います。ニューヨーク市民の79%は、歯に何らかの自覚症状がなくとも歯科医院に1年に一度は健診を自ら受けるそうです。東京都民で健診を受ける割合はわずか24%とのこと。日本ではわざわざ歯が痛くもないのに歯科を受診するということはあまりないということがわかります。この意識の違いは、歯科治療の料金がニューヨークと日本では大きく違うことも関係しています。日本では歯科は国民皆保険の中に入っていますから、誰でもが「治療」を受けることができます。歯は悪くなくても健康保険で直してもらえという意識があります。それがかえって歯の健康に対する意識を弱いものになっているようです。しかし、歯は一度壊れると元には戻りません。「えー、そうなんですか？歯医者さんは歯を直しているのではないのですか？」と思われるかもしれません。歯科の治療は壊れたものを元に戻すのではなく、修復したり、補ったり(補綴)するものなのです。歯科治療後の歯は元の健康な歯とは同じではありません。歯の周りの組織や粘膜は再生能力がありますから元に戻ることはありますが、硬いエナメル質と象牙質で覆われた部分が壊されるとこれが再生することはないのです。ですから、私たちが生まれもった歯は大事にしないとイケません。壊れる事態に陥る前に健診を受けて確かめる慎

重さと歯の健康を守るための衛生意識がとても大事だと思います。日本の健康保険制度はとても優れたもので国民の健康を守っていますが、予防医学までカバーするものではありません。ですから、歯科でも健診や衛生状態を護る診療には保険適応ができないものがあります。専門家の目から見たお口の健康を守る健診やクリーニングはニューヨークから見ればだいぶ遅れていると言えるでしょう。昭和大学歯科病院では、保険診療だけではなく、このようなプロフェッショナルなお口の健康のメンテナンスにも取り組んでおりますので是非お問い合わせください。

このようなメンテナンスをするとどのくらい歯を護ることができるでしょうか？スウェーデンでは、1年に一度の歯の定期検診を義務付けました。この前後では80歳での歯の残存数が大幅に変わりました。それまでは日本と同じく80歳では10本も残っていなかったのが今では平均で20本も歯が残るようになりました。日本はまだ10本程度です。これが定期検診の威力です。

日本ではレベルの高い人でも歯が欠けていたりしてもあまり気にしません。私は専門が歯科ですからやはり口元はとても気になります。きれいな口元でいたいものです。年の初めにご自身とご家族の歯の健康を考えてみてはいかがでしょうか？



イタリア トスカーナにて

歯科医療最前線:「総義歯をさらに快適にするインプラント」

高齢者歯科 科長 佐藤 裕二

残念ながら歯を全て失われた患者さんに対しては、総義歯(総入れ歯)による治療を行います。

通常の保険適応の義歯は、人工の歯とプラスチックで作ります。

その手順は、だいたい次のようになります。

1回目:医療面接・診察・検査・簡単な型どり

2回目:精密な型どり

(オーダーメイドの型どり枠を使います)

3回目:上下のかみ合わせの記録・人工の歯の選択

(4回目:下あごの動きの記録)

5回目:仮の入れ歯をあわせてみます

(仮縫いみたいなものです)

(前歯と奥歯の2回に分ける場合もあります)

6回目:完成した義歯の調整

7回目~:義歯の調整

(痛いところが出ることも多いですから)

3~6カ月ごと:定期健診・調整



総義歯(総入れ歯)

通常はこの義歯で、咬んだり、しゃべったりできることも多いですが、「残っている歯茎がやせている」「粘膜が薄い」「ツバが少ない」などがある患者さんや、高い希望をお持ちの場合は、保険外になりますが、「金属床義歯」や「インプラントを使った総義歯」もあります。

「金属床義歯」は、上あごの中央部が薄い金属でできています。

「口の中が広くなる・食物の温度がわかりやすい・壊れにくい」などの利点があります。



金属床義歯

総義歯でよく問題になるのが、「下の義歯が外れやすい・痛い」といった問題です。この場合には、下あごに2本程度のインプラントを植えて、それを支えにして義歯を安定させる方法があります。



2本のインプラント



義歯の内側にインプラントに組み合わさる部品がある



お口の中で安定した義歯

この他にも総義歯を快適にする様々な方法があります。担当医にご相談ください。

部署紹介 事務課管理係

管理係は、縁の下の力持ちであり、いわゆる「何でも屋」です。目立ちませんが、歯科病院で解決すべきことについて、いつも何らかの形で関わっています。管理係の仕事は一般企業の総務課・人事課・経理課・営繕課に相当する業務や大学附属病院として行政との折衝や臨床研修医関係の業務など多岐にわたっています。

病院の理念である「患者本位の医療」はもとより、良い病院に改善するため日夜努力をしています。もともと医療とは患者さんと医療者が信頼関係を築いて共に協力し「病」に立ち向かうことですが、ともすれば人と人ですから感情面や言葉の行き違いにより、患者さんが不愉快な思いをすることがあるかもしれません。

また、当院は開院以来30数年を経過しておりますので、施設面などでもご不満な点もあるかと存じます。こういった患者さんの言葉一つ一つに耳を傾け問題や不満を解決し、安全で安心な医療を提供する当院の下支えをしているのが管理係です。

事務課 管理係 係長 連川 潔

節電のお願い

当院では節電に取り組んでおります。患者さまにはご不便・ご迷惑をお掛け致しますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

当院の節電への取り組み

- ①院内照明の照度の引き下げ、または消灯。
- ②空調温度の引き上げ(冷房時)・引き下げ(暖房時)、または停止。
- ③電力逼迫時のエレベーターの運行制限。



患者さん対象 インプラント治療に関する説明会のお知らせ

インプラント治療について、わかりやすく御説明いたします。どうぞお気軽にご参加ください。

第23回

日時:平成26年2月25日(火)正午～午後1時

第24回

日時:平成26年3月25日(火)正午～午後1時

会場:昭和大学歯科病院 6階 第2臨床講堂

参加費:無料 当日直接会場へお越し下さい。

(事前申し込み不要)

演者:昭和大学歯科病院インプラントセンター

センター長 尾関 雅彦 教授



編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年は猛暑、台風直撃、大雨などの自然の脅威に晒され、一息つく間もなく、年明け早々大寒波に襲われ、北国では異常低温、ドカ雪に難渋しているようです。「天災は忘れた頃にやってくる。」という諺は今は昔、「天災は忘れる間もなくやってくる。」昨今です。

さあ、皆様お口の健康を守り、栄養をしっかりと摂り、体力を蓄え、あらゆる天災を乗り越えましょう。

歯科病院は今年も皆様のお口の健康を守ってまいります。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

(K.T)